



医療福祉生協連

## あなたは“老い”をどう感じていますか？



### 軽度認知障害（MCI）の増加 いま求められる地域医療とまちづくり活動 ～無差別平等と協同の営みは健康のとりで～

職員総代 森山 美千留

6月21日に第39回通常総代会が開催されました。職員総代として発言させていただいた内容をお伝えします。

MCIと呼ばれる軽度認知症障害が増え、地域課題になってきたことを私たちは実感しています。MCIは認知症そのものではありません。しかし健常な状態でもありません。認知症と健常な状態の「中間のような状態」と言われています。

実際に地域福祉室の支援でも軽度認知障害を背景とする相談が増えています。多くがMCIへの対応が遅く様々な課題が積み重なり大きな問題に発展しているケースです。

ある患者さんは、妻を亡くされた後に大家とのトラブルに発展し、長年住み慣れた家を出ていかなければならなくなりました。このときこの患者さんが声を上げて泣かれていた姿が目からはなれません。もう少し早く、患者さんの変化に気づいていたら、長年受診して下さる患者さんの生涯を見守り適切な時期に必要な援助をしていくために私たちは何ができるのか、そんな思いから定期的に病院で開催されている認知症事例検討会に投げかけてみました。他の職場からもMCIが増加し注目されていることが分かりました。

MCIは早期発見と予防が非常に重要です。適切な治療や生活改善により、症状の回復や進行を遅らせることが可能です。だからこそ、専門職集団として患者さんの生活環境や暮らしぶりに関心を寄せ、見守りをシステム化していく必要があるのではないかと意見を共にしました。

そして私たち専門職が地域にMCIの知識を普及していくことも重要だと考えました。MCIの方々が周囲とトラブルを起こしていく要因には、「日常生活は自立していて認知症があると見えないけれど健常な状態ではない、苦手があるし、そのせいで心も穏やかではない。場合によっては生活に困窮している」ということが周囲に理解されていないことがあります。目先の行動で「困った人」「変な人」としてみなされてしまうのです。

軽度認知障害の予防と回復は日常の豊かな暮らしの中にあります。それは組合活動そのものです。ですから今ここで皆さんにMCIを知っていただき、ご自身をMCIから予防し健康を維持する活動や、周囲の「小さな困った」からつながりを深めMCIから回復に導く助け合い活動を地域に広めてほしいと願います。職員の私たちにはそのことを地域に啓蒙していく役割があると思っています。

最後に、軽度認知障害を悪化させお困りになっている方を組合員さんからの相談で支援させていただき事

業所と一体になって大きく問題を解決したケースも生まれています。支援する側、される側、どちらも喜びを感じるケースです。これこそ地域医療、まちづくり活動だと実感しています。職員、組合員がめざす無差別平等と協同の営みは「健康のとりで」です。これからも地域福祉室として職員・組合員の協同と連帯を目指していきます。



### “老い”を豊かに過ごすために 患者さんの人生に寄りそって



ご高齢の夫婦は障がい者施設に通う娘と暮らしています。障害児への理解が乏しかった時代、子どものために休みを取りやすいよう長年夫婦でパートタイマーとして働いてきたため年金は少なく、夫婦で物忘れが増えて金銭管理が難しくなってきました。足腰も弱くなり夫婦は娘の世話はできないと考えるようになりました。娘も自立を考えましたが条件が整いません。そのうち経済的な問題が大きくなり、ケアマネ、障害者施設の相談員、社協と一緒に家族それぞれの思いを尊重し時間をかけて援助していきました。その甲斐あって娘はグループホームに入所し、夫婦は金銭管理を社協にゆだね毎月外泊してくる娘を楽しみに待っています。

“老い”は力を失い誰かの力で生きていくことのように思いますが、“老い”は生きてきた歴史を積み重ね自己を確立する成長の軌跡でもあります。だからこそ高齢者を力のない庇護する存在として捉えるのではなく、個々の人生に寄り添い、それぞれの思いを尊重していくことが大切です。“老い”と共に豊かさを重ねられる社会に…

### 健康まつり子ども無料バザーご協力のお願

昨年の健康まつりでは「ささえ愛ボックス」に届けられた子ども用の衣類やグッズの無料バザーが大変好評でした。組合員さんより、今年も是非おこないたいのご相談があり、職員の皆さま方に物資提供のご協力をお願いします。ささえ愛ボックスかまちづくり支援部にお届けください。宜しくお願い致します。

